

## マタイ 1 : 18-25 「処女受胎」

1:18 イエス・キリストの誕生は次のようであった。その母マリヤはヨセフの妻と決まっていたが、ふたりがまだいっしょにならないうちに、聖霊によって身重になったことがわかった。1:19 夫のヨセフは正しい人であって、彼女をさらし者にはしたくなかったので、内密に去らせようと決めた。1:20 彼がこのことを思い巡らしていたとき、主の使いが夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ。恐れないであなたの妻マリヤを迎えなさい。その胎に宿っているものは聖霊によるのです。1:21 マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。」1:22 このすべての出来事は、主が預言者を通して言われた事が成就するためであった。1:23 「見よ、処女がみごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」(訳すと、神は私たちとともにおられる、という意味である。)1:24 ヨセフは眠りからさめ、主の使いに命じられたとおりにして、その妻を迎え入れ、1:25 そして、子どもが生まれるまで彼女を知ることがなく、その子どもの名をイエスとつけた。

導入

皆さんは出産経験がありますか。または、身近な人で、最近出産した人がいますか。

家族や親せきで赤ちゃんができたという知らせがあると、みんな大喜びします。

約 2000 年前にも、赤ちゃんが生まれるという知らせがありました。

それは、歴史上もっとも重要な誕生でした。

しかし、その知らせを手放しで喜べなかった人がいました。それは、ヨセフです。

後ほどその理由がわかるでしょう。

聖書には、驚くような不思議な誕生の物語が数多く記録されています。イサクを生んだサラはずっと子どもができませんでした。100 歳近くになって出産しました。これは不思議な奇跡ですが、男性の種が女性の胎に入った結果には違いありません。

(創世記 18 : 9-15、21 : 1-7)

サムエルは預言者であり、王に油注ぐ者でした。彼の出生もまた奇跡的なものでした。母ハンナは子ができず、神が彼女の祈りに応えて胎を開いてくださったおかげで、子を授かりました。これもまた、男性の種からできた子です。(サムエル第一 1 章)

ルカの福音書 1 章を読むと、エリザベツも子ができず、高齢になってバプテスマのヨハネを生みました。

これらはすべて奇跡的な出産であり、それぞれ不思議な話です。しかし、聖書の歴史における人のどれほど奇跡的な出生も、イエスのご降誕に類するものではありません。

その理由は、「処女受胎」です。つまり、人間の種なしに受胎した子であるからです。出産は通常の出産でも小さな奇跡ですが、イエスのご降誕はまったく違ったものです。

先ほど読んだ個所で、注目したいポイントが 5 つあります。

それはすべて「処女受胎」に関する内容です。

## 1. 処女受胎の事実 (18 節)

### 婚約期間

当時の婚約の習慣は、現代社会の婚約とは違います。

男性の両親が息子の嫁を選びます。これは、実際の結婚よりずいぶん前になされることもありました。

婚約期間には第二段階がありました。これは、証人たちの前で行う法的な儀式でした。この段階に入ると、法的な契約が成立し、破談にするには離婚する必要がありました。しかし、この段階ではまだふたりの間に性的な交わりはありません。それは正式な婚礼の後です。婚礼の期間は女性の年齢によって変動しますが、6ヶ月間から6年間続きました。

婚約期間の第二段階中に他の異性と性的な関係を持つことは姦淫と見なされました。モーセの律法のもとでは、姦淫は石打ちによる死刑と定められていました。

このことを念頭に 18 節を読むと、「処女受胎」の事実がわかります。

18 節から、マリヤは処女であり、ヨセフと性的な関係を持っていなかったことは明らかです。人間の考えでは、マリヤが妊娠・出産をすることは不可能です。何らかの奇跡が起こらない限り、男性の種なしに出産することはありません。

これは、クリスマスのおけるもっとも重要な事実です。

処女受胎がなければ、クリスチャンがクリスマスを祝う意味はありません。

ケンタッキーフライドチキンやクリスマスケーキをおいしくいただいて、クリスマスプレゼントをもらってうれしいかもしれませんが、本当に祝うべきことは、「処女受胎」の事実です。神が赤ちゃんの姿をしてこの世に来てくださったことです。

何もないところから何かを生み出すことができるのは、神だけです。

人は何かを造り出すには材料が必要です。しかし、神は何も必要ではありません。神の聖霊は、無から何かをお造りになれるのです。

信じ難いことですが、信じる必要のある事実です。そうでなければ、クリスマスを祝う意味がまったくありません。

### あなたは、処女受胎を信じますか。

神が天の栄光を離れ、自然を超越した種という形でこの世に来られ、処女の胎に宿り、通常の胎児のように育ちました。しかし、人間が持つ生まれつきの罪を持たずに育ちました。

この世に生まれたすべての人間は、生まれつき罪深い心を持って生まれます。それは、人間として生まれる定めであり、しかたのないことです。

ローマ 5 : 12 は次のように語ります。

そういうわけで、ちょうどひとりの人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして死が全人類に広がったのと同様に、——それというのも全人類が罪を犯したからです。

もしイエスが通常の生まれ方をしたなら、イエスもまた罪深い性質を持って生まれることとなります。しかし、イエスは通常の生まれ方をなさいませんでした。それで、生まれつきの罪が心になかったのです。

このことを理解するのはとても重要です。

この世の宗教で、どんな人の教えを支持しても大差はありません。というのも、すべての人は罪深い人間の性質を持って生まれたからです。

一方、イエスは違います。イエスは罪の性質を持たずにこの世に来られました。

クリスマスの本当の意味を味わうためには、処女受胎は、私たちが信じなければならない事実です。

## 2. 処女受胎との直面（19-20 節）

19-20 節で、ヨセフが「処女受胎」の事実と直面します。

そこには、ヨセフが正しい人であったと記されています。自分の婚約相手が妊娠したと聞いて動揺していたでしょうが、彼女が姦淫の罪で石打ち刑に処せられることは望みませんでした。

ヨセフはマリヤを守る方法を考えました。

ヨセフがこのことを考えていると、主の御使いが突然夢の中に現れました。

御使いはこう言いました。「ダビデの子ヨセフ。恐れなくてあなたの妻マリヤを迎えなさい。その胎に宿っているものは聖霊によるのです。」

ルカ 1 : 26 から、その御使いの名が「ガブリエル」であったことがわかります。

またこのとき、マリヤが妊娠 4 カ月ほどであったこともわかります。

彼女は親せきのエリザベツのところで 3 カ月ほど過ごしました。（ルカ 1 : 36、56）

ヨセフは、夢の中で御使いが言ったことを信じるしかありませんでした。

自分のいわずけのお腹の中に神の聖霊が種を入れられたのだと信じるしかありませんでした。

ヨセフにとって、これはすぐに信じられることではありません。私たちにとってもそうです。

御使いの言うことを信じるには、ヨセフに多くの信仰が要りました。

しかし、御使いはただ単に聖霊による奇跡の出産の事実を知らせただけでなく、その理由も説明してくれました。

では、21 節に進みましょう。

## 3. 処女受胎の説明（21 節）

なぜ処女受胎が必要だったのでしょうか。いったいどういうことでしょうか。

御使いは、マリヤが男の子を生むとヨセフに伝えました。当時、胎児のエコー画像はありません。御使いはヨセフに、その子をイエスと呼ぶようにと言いました。そして、この人、つまりイエスこそ、罪から自分の民を救ってくれると言いました。

イエスという名は、ヘブル語のヨシュアの変形です。ヘブル語では、エホバは救われるという意味です。ヨシュアと名付けられた人はたくさんいます。その人たちは自らの名によって、主なる神の救いを証します。

しかし、マリヤからお生まれになるこのイエス（ヨシュア）は、神の救いを証するだけでなく、このお方自身が救いとなられるのです。

ご自身の業によって、ご自身の民を罪から救われるのです。

神が何千年も前に約束された救いのご計画が実現しようとしていました。

この赤ちゃんは、マリヤから生まれ、ユダヤ人を罪から救おうとしていました。それが、この個所に書いてある内容です。

それまで神は、罪の覆いとして動物のいけにえを受け入れておられました。

ユダヤ民族全体が、罪の深刻さを知り、血を流すことによるのみ罪が赦されることを知っていました。（レビ 17 : 11、ヘブル 9 : 22）

御使いは、マリヤの胎内の赤ちゃんは成長してユダヤ人を救う救い主となると語りました。

これは、ヨセフにとって喜ばしい知らせだったことでしょう。その直前まで、マリヤの不名誉をどうやって隠すかと考えていたのに、次の瞬間には、自分の妻になる女性に神が大切な使命を託してくださったと知って喜んだことでしょう。

御使いは続けてヨセフに話しました。

#### 4. 処女受胎の預言（22-23 節）

ここでマタイは、イエスのご降誕が旧約聖書中に神によってあらかじめ知らされていると語ります。それは約 750 年前のことでした。

イザヤ書 7 : 1-14 にある預言を、前後関係を考慮して読むと、なぜ神がイザヤをとおして語る時期として歴史上のこのときを選ばれたのか、理解しがたいものがあります。

私自身、これを理解するのに長い時間がかかりましたが、長い時間をかける価値が十分ありました。

イザヤ書 7 章の場面は、アハズ王の時代です。

アハズ王は邪悪な王でした。

彼のせいで当時のイスラエルには偶像があふれていました。アハズ王は息子までモレクの神へいけにえとしてささげました。

では、イザヤ書 7 : 1-14 をリビングバイブルで読みましょう。

1 ヨタムの子で、ウジヤ王の孫にあたるアハズ王が治めている時、エルサレムはシリアの王レツィンと、レマルヤの子であるイスラエルの王ペカの攻撃を受けました。幸いエルサレムは占領されず、無事でした。 2 ところが、「シリアとイスラエルが連合して攻めて来る」という情報が伝わると、王も国民も震え上がり、暴風にゆさぶられる木々のようにおののきました。 3 そのとき神様は、イザヤに命じました。「息子のシェアル・ヤシュブと出かけ、アハズ王に面会を求めなさい。王は今、ギホンの泉から布さらしの野に通じる道の近くにある、上の貯水池へと向かう上水道の端にいる。 4 会って、心配するな、と伝えるのだ。レツィンとペカが何だ、あんなおちぶれた二人が真っ赤になって怒ったからといって、別にこわがることはない、と言って聞かせるのだ。 5 なるほど、シリアとイスラエルの王は攻めて来る。彼らはこう言うだろう。 6 『さあ、ユダに攻め上って、パニック状態にしてやろう。それから一気にエルサレムへ進撃し、タベアルの

子を新しい王にしよう。』 7 だがわたしは断言する。この計画は成功しない。 8 ダマスコはシリアの首都で終わり、レツイン王の領土はこれ以上ふえないからだ。またイスラエルも、六十五年以内に、跡形もなくなる。 9 サマリヤはイスラエルの首都で終わる。ペカ王の努力も水のあわだ。わたしのことばが信じられるか。守ってほしければ、わたしの言うことを素直に信じるのだ。」 10 それから間もなく、神様はアハズ王に告げました。 11 「アハズよ、わたしはおまえの敵を粉砕すると言った。この約束の確かなしるしを求めよ。天でも地でも、望みどおりのものを。」 12 「と、とんでもありません。そんなことで、わざわざ神様をわずらわすなど恐れ多くて……。」 王は首を振りました。 13 その返事を聞き、イザヤは開き直りました。ダビデの家よ。あなたがたは私の堪忍袋の緒を切らせるだけで満足せず、神様の堪忍袋の緒まで切らせようとするのですか。 14 それならそれでいいでしょう。しるしは神様がお決めになります。見ていなさい。処女が子供を産みます。彼女は生まれた子にインマヌエル〔「神様がいつしよにおられる」の意〕という名前をつけます。

シリアの王レツインとイスラエルの王ペカは、アハズを失脚させ、自分たちの言いなりになる王を即位させようと考えました。

これはイスラエルの民と救い主イエスの血筋となる王族すべてに対する脅威です。アハズは、神に助けを求めようとはせず、邪悪なアッシリヤの王に助けを求めました。神殿の金銀まで贈って、応援を頼みました。

イザヤはアハズのもとに来て、神ご自身が敵国のふたりの王から助け出してくださると伝えました。

アハズはその言葉に耳を貸さず、イザヤはこれに不思議な預言で答えました。

では、この預言は古の場面にどのようなにはまるのでしょうか。

イザヤが当時の人々に語ったのは、神の民もダビデ王の血筋も滅ぼすことは誰にもできないということです。

預言者イザヤは、「あなたがた」と複数形を用いていることから、民全体に語りかけていたことが分かります。

神は、ご自身の選びの民を滅ぼしつくすことも、メシヤの血筋を絶やすことも、お許しにはなりません。

イザヤの時代、人は神のご計画を無にしようとしたましたが、神はすべてを支配しておられました。

## 5. 処女受胎を守る。 (24-25 節)

ヨセフは、御使いに命じられるとすぐに従いました。マリヤとの関係を守るためにすぐに結婚しましたが、初夜には性的関係を持ちませんでした。マリヤが子を産むまでその状態を守りました。

そして、言われたことに最後まで忠実に従い、その子をイエスと名付けました。

イエスの自然を超越した出生は、その生き方を説明できる唯一の方法です。

処女受胎を否定する懐疑主義者が、あるときクリスチャンに尋ねました。「もし、あそこにいる子が人間の父親なしに生まれたと言ったら、あなたは信じますか。」

クリスチャンは答えました。「はい、その子がイエスの生きたように生きるなら信じます。」

処女受胎に関して目に見える最大の証拠は、イエスの生き方です。このお方は、神のように 100%聖なる生き方をなさいました。

また、イエスは十字架にかけられ、イエスを信じるすべての人の罪の罰を負うことで、ご自身の使命を果たされました。

クリスマスに、私たちはイエスの生誕を祝います。しかし、イエスの死をとおして、私たちは罪から救われています。

### 適用

今日の個所から、いくつか日常生活に応用できることがあります。おもに、神のみことばを信じることです。おかしいと思えることでも、人間的には不可能なことでも、信頼するのです。

ヨセフは、一見不可能な内容でも、御使いの言葉を信じました。

今年のクリスマス、私たちの救い主となるために天国と呼ばれる聖なる場所の栄光を離れて地上に来てくださったイエスを信じることは、うますぎて信じられない話かもしれませぬ。

けれども、これは本当です。喜びに満ちてクリスマスを祝いたいなら、イエスに信仰を置く必要があります。

キリスト教についてまだよく知らないという方は、ヨハネの福音書をぜひお読みください。それから、OIC のホームページでヨハネの福音書の説教集をダウンロードして読んでみてはいかがでしょうか。

では祈りましょう。